こんなことはありませんか

生活の場面で

すぐに気が散ってしまう
じっとしていられない
決まっていることが変わると不安で仕方がない
うまく片付けることができない
よく物を失くす

友達関係や集団活動の場面で

友達とうまくかかわることができない
思い通りにならないとすぐ手が出てしまう
相手が困るようなことも遠慮なく言う
場の空気を読むのが苦手
こだわりのために、切り替えができない

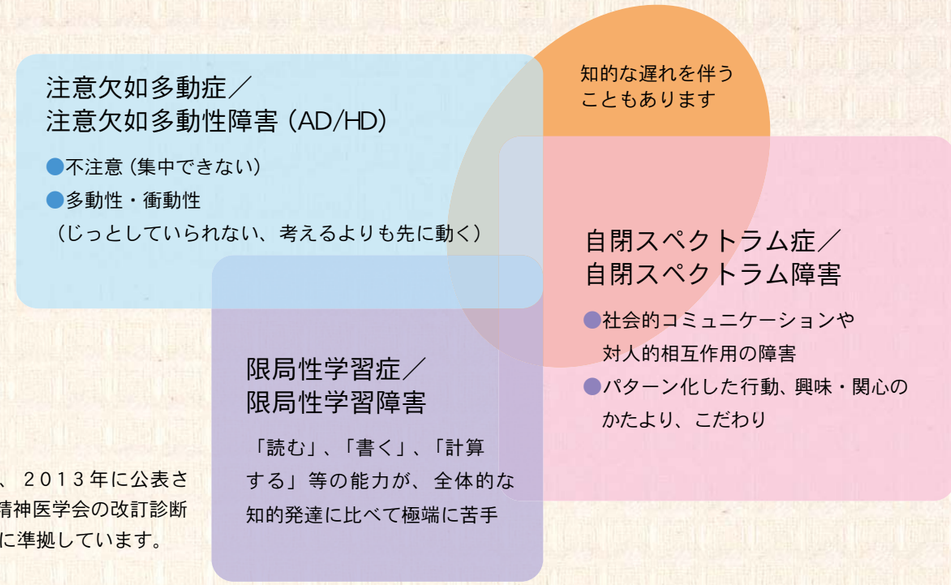
学習の場面で

聞き間違いをしてしまう
不器用で動作がぎこちない
簡単な計算にとても時間がかかる
ノートをとるのが苦手
忘れ物が多い

「発達障害」は脳の発達の問題であり、養育環境やしつけの仕方によって、引き起こされるものではありません

理解のない対応で、自信と自己肯定感をなくすことも・・・

このような診断名がつくことがあります



◆図の診断名は、２０１３年に公表されたアメリカ精神医学会の改訂診断基準ＤＳＭ−５に準拠しています。

早く気づいて、よい関わりを持つことが大切です

①子どもを肯定的にみる

叱られたり、失敗する経験が多いと、自尊感情は低下していきます。失敗や間違いを指摘するよりも、小さなことでもほめることを心がけましょう。

- タイムリーにその都度、さりげなくほめる
- 感情的に叱るのではなく、具体的にどうしたらよいか教える

②視覚的に伝える

話を聞くだけで理解することは苦手のようです。視覚的に伝えると理解しやすく、忘れにくくなります。

- 絵カード、文字カードを使う
- ジェスチャーで伝える
- 実物、本物を見せる

③指示は短く、具体的に

あいまいな表現、一度にたくさんの指示、否定的な表現は混乱しやすくなります。具体的で簡潔な指示を心がけましょう。

「ちゃんとしなさい」 → 「椅子に座りましょう」
「走ってはダメ」 → 「歩きましょう」

④見通しを持たせる工夫を

今何をするのか、次に何をするのか、どうなれば終わりなのかを伝え、見通しが持てるような工夫が、安心につながります。

- 個々に合ったスケジュール表や、チェックリストを活用する

⑤刺激は少なく

刺激が多すぎると、注意散漫をもたらします。その子に合った環境や空間になるよう、心がけましょう。

- 落ち着ける場所の確保
- パーテーションを使う